

焼津おさかな大使 長谷川久志さん 深海漁で一躍有名に！焼津の深海おじさん

議員が直接話を聞いて市民の本音に迫る「市民インタビュー」。

今回から、様々な分野で活躍され、焼津市の魅力をPRしていただいている「やいづ親善大使」の皆さんをシリーズで紹介します。

第一弾は、「焼津の深海おじさん」の愛称で親しまれている小川漁協所属深海専門漁師の長谷川久志さんにお話を伺いました。

1. 深海漁をしている経緯について教えて！

中学卒業後はマグロ漁をしていて、マグロ漁船で出会った人によって人生が変わりました。その人たちからいいことをすれば、子どもや孫に返るということを学び、いいことをしなければと思いません。仕事を一生懸命やることも学びました。今では全国に友人もい

て楽しい人生を送っています。

深海漁専門漁師になった理由は、サバやマグロなどは魚の値段を自分で決められないことです。魚の値段は魚屋で決められてしまうので、魚市場で売れない物を探って自分で売ればよいのだと思い、深海魚を採り始めましたが、販売先に苦労しました。

深海漁に舵を切ったことで今の自分があると思っていますし、そうでなければ親善大使にもならなかったと思います。



〈やいづ親善大使〉
長谷川 久志さん

2. やいづ親善大使としての長谷川さんの活動について教えて！

やいづ親善大使になったことで、「さかなの街 焼津」と書かれたピンクのカップをもらったので、テレビ番組等でスタジオ出演する時には、カップを着て出演するようにしています。また、名誉館長をしているヨコハマおもしろ水族館でのイベントでは、焼津観光協会のパンフレット等を300部ほど配っています。水族館には全国から観光客が来てくれるので、焼津で配る時とは違って多く渡すことができますね。イベント後には「焼津」と書かれたビニール袋を持つている人をよく見かけるので、いい宣伝になっているなと思います。

— 焼津のPR活動の他にどのようなことをしているの？

プロフィール

1949年に焼津で生まれ育ち、遠洋漁業や近海漁業を経て、現在は「長兼丸」の船長として親子二人で深海専門の漁を行う。

横浜中華街にある「ヨコハマおもしろ水族館」の名誉館長を務めるほか、520回以上のテレビ出演などメディアでも多数取り上げられている。また、国内外の大学や専門機関の調査研究にも多数協力している。

講演を行うこともあります。市内外の小中学校や、博物館へ行くこともあります。博物館での講演では、5分で申し込みが締め切られてからも、まだ参加したいという声が多かったので、2回行ったこともあります。



息子さんと長谷川久志さん

3. 焼津に住んでいてどんな街だと感じる??

住みやすくて人の心が温かく、生活しやすいと思います。

4. 焼津の人が知らない意外なこととは??

駿河湾は深さ2000mを超える魚の宝庫です。250本の釣り針で200本釣れることもあります。しかも1mを越えるものばかりです。食べればおいしいものもたくさんあります。

宝は駿河湾！深海にあり！
一方で、駿河湾の1380mの海の底には多くのレジ袋が漂っています。1988年で既に多く見られたため、現在はずっと多いかもしれません。焼津の人はこの状況を知らないと思います。



〈インタビュアー〉
深田百合子 議員

5. 行政や市議会に望むことは??

親子が駿河湾で深海漁をしていることで有名で、いろいろなことに取り組んできました。しかし、親子二人でできることはたかが知れています。いくら深海漁をして市場で卸しても魚を買ってくれないこともあります。

マグロやカツオ、サバは全国各地でも食べられます。行政も上手に深海魚を利用してくれれば、焼津に人が呼べると思います。他市で深海魚を取り扱っているとしても、焼津市ではもっと深い海で獲れた魚を食べられるという差別化ができると思います。



〈インタビュアー〉
内田修司 議員

6. これからやいづ親善大使として挑戦したいことは??

深層水ミュージアム等と協力して、これからの子どもたちに深海に興味をもってもらおうイベントを年2回ほどやってみたいですね。学校以外で行えば、他の市町からも来てもらえると思います。

また、学校等で呼んでもらえればどこでも行きますよ。グソクムシを持っていくこともできます。

